

情報連絡員報告総括表（令和4年11月分）

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況		
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化
製 造 業	食料品	2	2		1	3		2	2		1	3		1	1	2		3	1		4		1	3		1	2	1
	繊維工業		1	2	1	2		2	1			3			3			3			3			2	1		2	1
	木材・木製品			1		1				1			1			1		1			1		1				1	
	紙・紙加工品	1		1		2		2			1		1		1	1		2			2		2			1	1	
	印刷		1			1		1			1				1			1			1		1			1		
	化学・ゴム																											
	窯業・土石製品		2	1		3		2	1			2	1		1	2		3			3		3			2	1	
	鉄鋼・金属			1			1		1			1				1		1			1		1				1	
	一般機器	1	2		2		1	3				2	1		2	1		2	1		3		2	1		2	1	
	電気機器			1			1			1					1				1			1		1				1
	輸送機器		1				1		1			1				1		1			1		1			1		
その他																												
	小計	4	9	7	4	12	4	12	6	2	2	14	4	1	8	11		17	3		15	5	1	17	2	1	11	8
非 製 造 業	卸売業		2			2		2			2			1	1		2						2			1	1	
	小売業	1	5			6		3	3			4	2		2	4		4	2				6			3	3	
	商店街		1				1						1			1				1			1			1		
	サービス業	1	3	1				1	4			5			3	2		4	1				5			3	2	
	建設業	1	2	1				2	2		1	2	1	1	2	1	1	2	1				4		1	2	1	
	運輸業	1						1				1				1							1				1	
	その他		1						1			1			1			1					1			1		
	小計	4	14	2		8	1	10	10		1	15	4	1	9	10	1	13	6				20		1	11	8	
	合計	8	23	9	4	20	5	22	16	2	3	29	8	2	17	21	1	30	9		15	5	1	37	2	2	22	16

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和3年11月～令和4年11月)

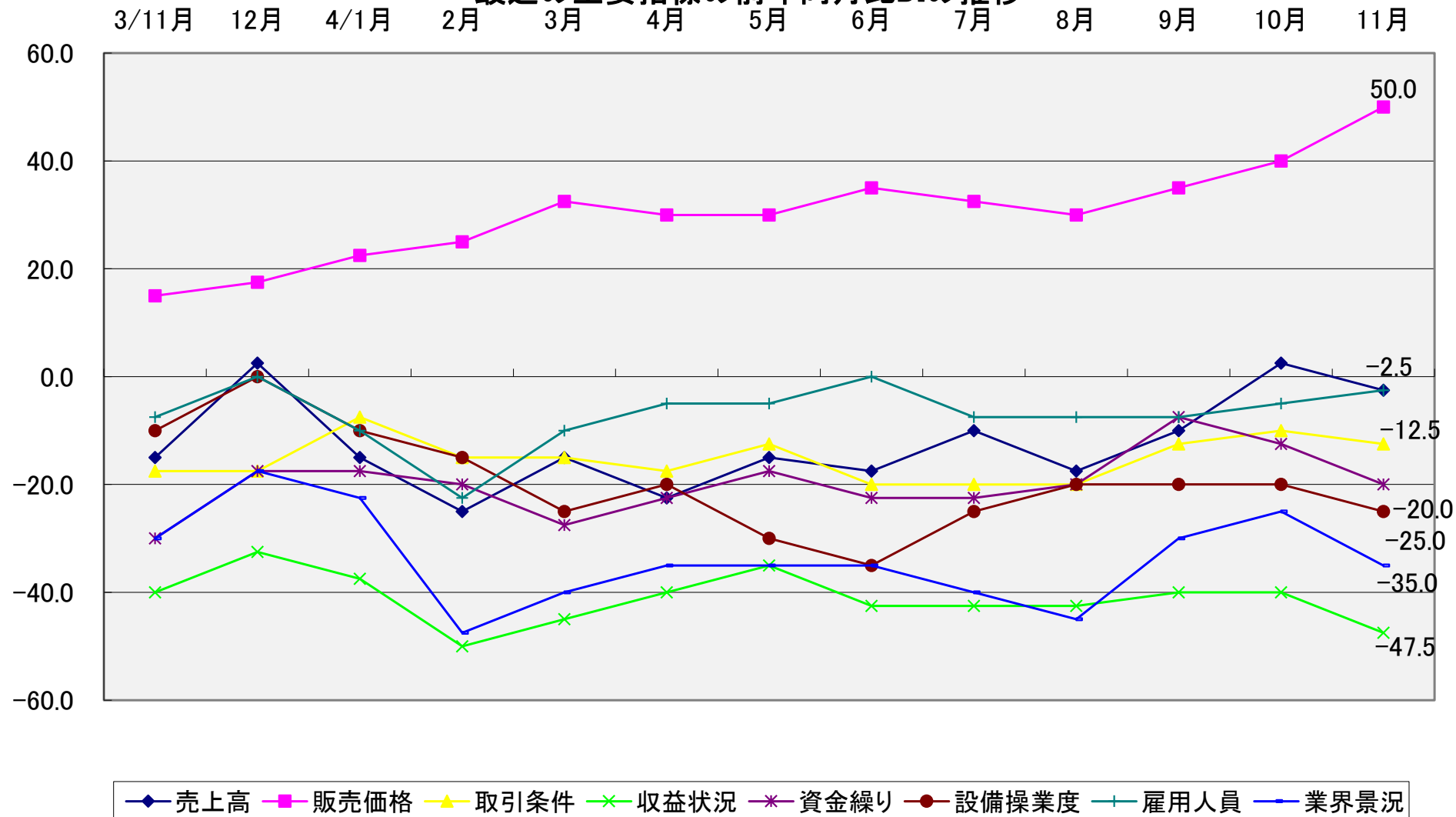
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40 名

	3/11月	12月	4/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	増減
売上高	-15.0	2.5	-15.0	-25.0	-15.0	-22.5	-15.0	-17.5	-10.0	-17.5	-10.0	2.5	-2.5	-5.0
販売価格	15.0	17.5	22.5	25.0	32.5	30.0	30.0	35.0	32.5	30.0	35.0	40.0	50.0	10.0
取引条件	-17.5	-17.5	-7.5	-15.0	-15.0	-17.5	-12.5	-20.0	-20.0	-20.0	-12.5	-10.0	-12.5	-2.5
収益状況	-40.0	-32.5	-37.5	-50.0	-45.0	-40.0	-35.0	-42.5	-42.5	-42.5	-40.0	-40.0	-47.5	-7.5
資金繰り	-30.0	-17.5	-17.5	-20.0	-27.5	-22.5	-17.5	-22.5	-22.5	-20.0	-7.5	-12.5	-20.0	-7.5
設備操業度	-10.0	0.0	-10.0	-15.0	-25.0	-20.0	-30.0	-35.0	-25.0	-20.0	-20.0	-20.0	-25.0	-5.0
雇用人員	-7.5	0.0	-10.0	-22.5	-10.0	-5.0	-5.0	0.0	-7.5	-7.5	-7.5	-5.0	-2.5	2.5
業界景況	-30.0	-17.5	-22.5	-47.5	-40.0	-35.0	-35.0	-35.0	-40.0	-45.0	-30.0	-25.0	-35.0	-10.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする
企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足が続いている。今年は8月に雨が多く、葉菜類を中心に初期生育が遅れていたが、その後の天候により順調に生育しており、例年並みの収穫が見込まれ、ほぼ例年並みの漬け込みが行われている。また、販売状況においても、コロナウイルスの影響により、お土産物の漬物の販売及び外食産業での需要の減少が続いていたが、旅行者の増加などにより、お土産物の需要がかなり回復してきた。一方で、ウクライナ戦争の影響による諸資材の高騰により、製造コストに影響が出ている。
	醤油味噌	時期的に組合員各社は、仕込み時期となり繁忙期に入っている。組合への原料発注も多い。また、季節柄イベントも多く、組合員各社感謝祭を開催したり、コロナで中止となっていたイベント等にも積極的に参加している。組合からもそのようなイベントへ職員を応援派遣したり、JA主催の食の大商談会に参加して商談の機会を持った。但し、全体の市況は相変わらず厳しく、依然として原材料の価格は上昇傾向が続いているが、販売価格はなかなか上がっていかない。
	製麺	12月3、4日に香川県高松市にて、年明けうどん大会が開催された。三重県産小麦を100%使用した伊勢うどんと松阪牛を使用したトッピングで多くの方々に堪能していただいた。これで今年のイベント日程は終了した。今後、コロナ禍であっても飲食の開催を期待している。
繊維工業	テントシート	景気動向がわからない。 後継者がいない、ある経営者は事業承継にM&Aの選択肢を考えている。
木材・木製品	木材	ウッドショック、ウクライナショック、円安の影響は薄れつつあり、前月比、前年同月比とも弱含み傾向ではある。
紙・紙加工品	紙器段ボール	先月と同様で円安や食品を中心とする値上げラッシュで需要が停滞している。新型コロナウイルス感染症第8波の拡大も進み、人の動きも少なくなり、荷動きが悪くなりそうである。なお、日本製紙連合の発表によると10月の紙と板紙の国内出荷は182万2千トンであり、前年同月比でみると3.1%の減少している。そのうち、段ボール原紙は1.9%減少で76万6千トンである。工業製品向けの半導体や部品の不足が低調の原因である。
	古紙	11月の仕入量：段ボール・約96±3%、新聞、チラシ・約89±5%、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約91±5%である。東京、大阪、京都等の有名観光地にはインバウンドの嬉しい知らせがあるものの、地方都市のアフターコロナはまだまだのようである。旅行や消費アップの政策効果も限定的に見える。生活必需品も含め値上げ効果と暖冬による冬物消費は落ち込み、紙の消費と古紙の集荷増量はなく、前年割れの組合員が多いと思う。製品原紙の値上げと共に国内古紙の価格の上方補正もありながらも、すでに負担済みの人件費、電気、燃料等の負担は重く押し掛かっている。現在130円代後半の円安で為替差は10円ほど円高であるが、国内商品取引価格からの積み上げ計算と古紙輸出取り現金価格とは10円から20円程の価格差がある。国内国外の製品原紙の需給は、急速な古紙在庫積み増しに向かっているようである。国内の紙・板紙の製品原紙販売価格値上げも近い将来には、消費差負担をせざる負えなくなると思われる。ミサイル等から国民の命を守る事の法制化は徐々に進んでいるようであるが、古紙の持ち去り行為の法制化はストップしており、正論で確信真理であっても組織力や思考能力や実行力等が伴わず、窃盗として法制化できないようである。法律があっても、これらに準ずる行為は人類が困る行為であるが、今も無くなっていない。加えて、ゴミの置き去り行為も回収容器に投げ込む者が増えて来て悪質となり法的対応と罰が必要である。
印刷	印刷	原燃料の高騰や円安による資材の値上げは続き、特に印刷用紙は、来年早々には3回目の値上げのアナウンスがあった。この1年間で用紙価格は1.5倍以上という異常な状況である。
窯業・土石製品	伊賀焼	緩やかに来客数、注文数等は増加してきているように感じるが、原料費、光熱費の増加による負担は前にも増えてきている。なかなか価格に反映できない業況でもあり、頭を悩ませている組合員も増えてきている。
鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産額は10月とほぼ同様で自動車関連部品、建築関連部品及びガス関連部品は横ばいの状態であり、半導体関連は若干の増加傾向であった。来年初めは少し減産傾向にあるといわれているが、1月までは現状維持の傾向である。原材料の高騰、エネルギー価格の高騰(ガス、重油、電力料)が続き、それによる収益の圧迫で経営面では非常に厳しい状況が続いている。
一般機器	四日市	実状、業況は急激な円安、半導体不足や紛争の長期化による仕入価格の上昇、自動車関連は未だ低調なため、企業経営に影響している。業績は横ばいや下向きの傾向はあっても上向く兆しは見受けられない。
	津市	半導体不足での生産調整は少なくなってきたように思えるが、依然として生産調整はあるようで、内示から確定注文になる時に数量が減っているのが見受けられる。また、少し落ち着いてきたかと思っていた材料遅延は、11月後半から発生し、生産したくても生産できない状況が時々発生している。まだまだ先行きは見通せない状態が続くのではないかと感じている。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
	伊勢	販売価格の値上げを認めていただき、材料価格の値上げをカバーできている。組合員を見ると業種により良いところと悪いところがはっきりしてきている。自動車の欧州向け現地生産部品の需要は減り、国内の設備関係への売上も減少傾向であるが、建設や土木関係の取引は、相変わらず好調が続いている。	
	電気機器	鳥羽	11月は受発注が15%落ち込んでおり、特に電気器具関連が落ち込んでいる。半導体関連は横ばいで推移している。
	輸送機器	鈴鹿	鈴鹿市内の大手自動車メーカーでは、生産数挽回のため、休日稼働を計画するものの、直前になって取り止めになることが何度も繰り返されていたが、今月はようやく休日稼働が実行された。しかし抱えているバックオーダーは膨大でありすぐには解消されそうにない。
非 製 造 業	小売業	青果	野菜前半：天候の影響で生育が遅れている品目が多く、全体的に品薄気味である。キャベツ、ブロッコリー、白菜等の入荷が少なく高値である。大根、人参は値下がりしており、荷動きも良い。ナスは好天に恵まれ、値下がりがしている。 野菜後半：適度な雨で生育が進み、トマト、きゅうり、ブロッコリーも値下がりがしてきた。レタス、大根はお買い得である。地場産の葉物も安くなっており、特にほうれん草がお買い得である。キャベツ、白菜は順調に入荷している。 果物前半：りんごは青森産の「早生ふじ」が順調に入荷している。長野産の「サンフジ」も入荷し、色も味も良い。柿は県内産の「次郎柿」が最盛期を迎えている。岐阜の「富有柿」も入荷し、大玉で味も良い。 果物後半：「早生みかん」は県内の各地から多く入荷している。また、愛知県、静岡県、和歌山県の産地からの入荷も多い。りんごは、長野産「サンフジ」が順調に入荷しており、昨年より安い。柿は「次郎柿」が終盤になり、岐阜の「富有柿」の入荷が徐々に増えてきた。また、県内産いちごの出荷も始まり、数量も増えてきた。
		自転車	通学用自転車の2023年モデルが一部ショップにて早期予約展示され始めた。今年は、原材料、海上運賃等の上昇により、昨年同商品（例80,000円→92,000円）が値上げとなり、あまりにも高額商品となったため、店舗によっては様々な商品並びに各色をしぼって展示している模様である。また、景気の影響もあり、このところユーザーの反応も鈍くなっている感がある。組合事業として、(公財)日本交通管理技術協会が扱う第三種TSマーク（緑色マーク）付帯保険が12月1日より使用変更されるにあたり、各組合員には11月10日より発送体制を整えた。
		電器	人の動きが活発になってきた影響で商品の動きも少し出てきたように思われる。ただ、燃料や食品関連と同じく家電製品も価格の高騰が起きているので、消費者の購入欲がどれくらい起きるか気になるところである。また、光熱費節約につながる省エネ家電の推進をこちらから進めていけるかが今から年末へ向けての課題である。みえ省エネ家電購入応援キャンペーンが始まってくれるのは追い風になりそうである。
		石油	石油増税反対総決起大会で増税反対・公平な課税を訴えた。 全国石油商業組合連合会・全国石油政治連盟・石油連盟は11月16日、都内のホテルで「石油増税反対総決起大会」を開いた。コロナウイルス感染防止のため、人数を例年の2/3程度に抑え、全国の石商 森洋理事長・油政連会長ら約320人が参集し、自民党石油流通問題議員連盟会長の逢沢一郎議員をはじめ、自民党税制調査会の宮沢洋一郎会長、公明党税制調査会の西田実仁会長ら109人の与党議員とともに、消費税の税負担抑制と石油サプライチェーンの維持強化に向け、政府・国会に増税反対と液体合成燃料の社会実現の加速を訴えた。大会後には、三重県選出の自民党衆参国會議員議員事務所を訪問し、大会決議内容などを陳情した。
		スポーツ	サッカーワールドカップが始まり、三重県出身の浅野選手がドイツ戦で決勝ゴールを決め、大いに盛り上がっている。浅野選手は、四日市中央工業高校の卒業生で、ヨーロッパで活躍しメンバーに選出されたが、高校時代は四日市の組合員の店舗の常連であった。浅野選手には今後の活躍を期待し、大いにサッカー熱を盛り上げてほしいものである。浅野選手の活躍は、組合員の売上に必ず寄与するものと思っている。
		商店街	熊野市
サービス業	旅館	「全国旅行割」と「地域クーポン」の効果は強力で、11月の集客は一気にコロナ前の成績まで押し上げられた。11月全体では、対前年120%、コロナ禍前の90%位まで回復した。しかし、12月、1月については、年末年始は満館の施設も多く、通常の年と同じ位の予約が入っているが、「全国旅行割」や「地域クーポン」等の支援延長の可能性はあるものの、途中で終了してしまったり、冬のオフシーズンを乗り切ること不安を感じている施設が多い。	

報告者名
報告年月

三重県中小企業団体中央会

令和4年11月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
建設業	総合工事業	今年度上半期の県・県内市町発注の公共事業の合計額は、前年度同期と比べ約1割の増となった。また、土木工事の平均落札率は91.0%であり、前年同期と比べ0.2%上昇となった。令和4年度当初予算による工事発注は概ね完了した。国においては令和4年12月2日に第2次補正予算が成立したことから、補正予算を財源とする公共事業の早期発注を期待している。
	内装工事業	11月も9、10月と同様に前年同月比でプラスとなった。コロナや円安等の影響や物価高により、今後の予測は難しい。
	水道工事業 (亀山)	資材等の価格上昇が止まった感があり、納期についても時期がわかるようになってきたが、年末から年度末にかけて、まだまだ先行きの不透明感がある。
運輸業	トラック	軽油価格は今月も値下げ傾向にあるものの、燃料高騰分の運賃転嫁が十分できない状況が続いており、経営は非常に厳しい。電子デバイス部門及び輸送全体については、持ち直し傾向にあるものの、キオクシア(株)の需要減による生産調整もあり、一部部門では減少している。ホンダ技研、トヨタ自動車とも新型コロナウイルス感染拡大に伴う部品供給不足の影響は残るものの、回復傾向にあるため、輸送についても増加に転じた。スーパー・小売部門については、ほぼ横ばいで推移しており、輸送についても現状維持となった。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	前月より、委託事業を進めている。今後は楽しみになってきた。三重県産小麦の新製品開発で盛り上げていく。
一般機器	四日市	仕入物価の上昇分しか販売価格に転嫁できず、自動車業界の低迷長期化により稼働が停滞したり、資金繰りが悪化する企業も多くみられる。そういった現状の把握ときめ細やかな支援と現在実施されている補助や助成対策の延長を希望する。コロナ対策に関して年末年始にかけて感染者増加という情報もあり今のうちに感染防止対策と経済との両立が図れるような更なる環境の整備を希望する。
サービス業	旅館	「全国旅行割」、「地域クーポン」等の支援の力は強力であったが、それだけにこの支援が終了すると、予約がない状態に戻ってしまうので、感染者が減っても安心して旅行ができるようになるまでは、規模を縮小してでも支援を継続してもらいたい。